

令和 5年 1月 27 日

関 係 者 各 位

一般社団法人石川県歯科医師会
会 長 飯 利 邦 洋

坂東陽月先生日本スポーツ歯科医学会学会賞受賞記念講演のご案内

時下益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

この度、石川県歯科医師会会員である坂東陽月先生が、令和3年度の日本スポーツ歯科医学会において、最高賞である学会賞(日本メディカルテクノロジー賞)を受賞されました。その偉業を称え、坂東先生による受賞記念講演会を下記の通り開催いたします。お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

参加ご希望の方は、下記コード・登録用 URL よりお申込みください。WEB フォームからのお申込みが難しい場合は、事務局へご連絡ください。(TEL076-251-1010)

定員に達した時点で申込は打ち切りとさせていただきますのでご了承ください。

記

日 時 令和5年3月19日(日) 10:00～11:45 (受付 9:30～)

場 所 石川県地場産業振興センター本館 2階 第1研修室

演 題 「身体能力を効率よく活かすために歯科が貢献できること
～スポーツ医・科学支援におけるスポーツデンティストの実践～」

定 員 120名

※ 県歯会員の先生は日歯生涯研修 IC カードをご持参ください



【登録用 URL】<https://ida1926.or.jp/l/20230319.php>

身体能力を効率よく活かすために歯科が貢献できること ～スポーツ医・科学支援におけるスポーツデンティストの実践～

石川県歯科医師会会員 坂東 陽月

講演会要旨

2011 年スポーツ基本法に「歯学」が明記されたことを受けて、歯科の特殊性を活かしたスポーツ支援に関わることを職責として再認識した歯科医療従事者は多いことと思います。私もその一人であり、競技者と歯科医師としての立場から、知識や経験をスポーツ現場へ活かす必要性を感じています。

遡ること 2008 年 FDI(国際歯科連盟)はスポーツマウスガードに関する政策声明を発表し、世界レベルでのスポーツ歯科医学普及の必要性を提言しました。これを受けて、IOC(国際オリンピック委員会)の医事委員会スポーツ歯科ワーキンググループは、トップアスリートへの歯科保健の啓発活動を展開しました。日本においては、2013年に(公社)日本歯科医師会と(公財)日本スポーツ協会主催による日本スポーツ協会公認スポーツデンティストの養成制度が開始され、スポーツ庁の設立、スポーツ基本計画の策定と続き、スポーツ環境を支援する体制は急速に整いました。この支援環境の拡充を助ける一分野として、スポーツ医・科学における歯科の重要性が他職種の間で徐々に認知され、オリンピック強化指定選手の歯科検診義務化やオフシーズンの歯科受診率の増加に繋がりました。

私がスポーツと歯の関係を意識した大きなきっかけは、1本の歯の欠損がどれだけ身体能力に影響するかを、身をもって感じたことが始まりです。何が違う！どうしてだろう…。この「どうして」を探るべく、研究会や学会に参加し、スポーツと口腔との関係を学びました。そしてその知見を、様々な競技・種目の選手に還元するために、積極的にフィールドに出向きスポーツ歯科の普及啓発活動を行いました。スポーツ医・科学的支援は、私たちの日頃の医療行為と同様に、科学的根拠(エビデンス)を前提とした計画・実践が必要となります。義歯を装着すると高齢者の転倒率が低くなる、という厚労省のデータが広く知られていますが、義歯の装着と身体の構造や反射機能との関連性に関する基礎的研究は少なく、咬合がどのように姿勢制御に貢献するのか未だ明らかにされていないことが多く残ります。私の研究は、咬合が姿勢に影響する根拠を明らかにし、スポーツ中に繰り返し起こる体勢の変化がどのように顎口腔領域と連動し、競技力への影響や安全なパフォーマンスに繋がるのかを模索することを目的としています。

歯科医療従事者としてのサポートは、競技団体や選手個人の特性あるいは競技・種目の特性により様々な方法・手段があることでしょう。私の日常は、診療所での歯科治療の傍ら、フィールドへ出向き多職種の競技支援者と連携・協働することや、研究活動を通じたエビデンスの構築、競技関係者に対するスポーツ歯学の普及啓発なども重視しています。選手や競技関係者に科学的解析の結果を提示することは、口腔への関心を惹き、競技力の向上に向けた支援や口腔管理の重要性を認識するのに非常に有益であることを実感しています。治療や予防を含めて、スポーツを通じた国民の健康管理や、スポーツを安心・安全に行うための支援に携われることに、充実感と使命感を持って取り組んでいます。

今回の講演では、スポーツ歯学の概略をはじめとして、身体能力と口腔との関連についての研究成果や、各種競技団体でのスポーツ医・科学支援、東京 2020 オリンピックでの活動経験、マウスガード、学校歯科と外傷予防などについてお伝えしたいと思っております。医療従事者、教育者、指導者、競技者としての皆さまのお立場に沿うような情報提供を予定しております。

略歴

平成4年 北海道医療大学歯学部卒業
平成5年 北海道市村歯科勤務
平成6年 金沢市竹中歯科医院勤務
平成10年～現在 ばんどう歯科医院勤務

主な役職等

2012 ロンドンオリンピック;文部科学省委託マルチサポート事業(トランポリン競技)

2020 東京オリンピック;Athlete Dentist(ハンドボール競技)

2024 パリオリンピック;日本スポーツ振興センター委託・日本体操協会(女子トランポリン競技)

次世代ターゲットスポーツ育成支援事業・医科学コンサルタント

(一社)日本スポーツ歯科医学会・理事, 代議員, 認定医, 認定マウスガードテクニカルインストラクター

(公財)日本オリンピック委員会・強化スタッフ(医科学スタッフ)

(公財)日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト

(公財)日本バドミントン協会・医事・トレーニング管理部

日本社会人クラブバドミントン連盟・顧問

日本小学生バドミントン連盟・医科学研究部

石川県社会人クラブバドミントン連盟・会長

石川県ジュニアバドミントン連盟・副会長

著書(共著)

1. 体と心 保健総合大百科 2021(少年新聞社, 2021)
2. ここまでできるスポーツ歯学から(第一歯科出版, 2018)
3. バドミントン教本ジュニア編(ベースボールマガジン社, 2016)
4. 実践スポーツマウスガード 製作・調整と競技別サポート(医学情報社, 2014)

論文

1. 坂東陽月, 高橋 睦, 福井卓也. トランポリン競技におけるトップアスリートの咬合状態が H スコアに与える影響. スポーツ歯学, 26, 2023.
2. Takahashi M, Bando Y, Fukui T, Maruyama A, Sugita M. Effect of clenching on spinal alignment in normal adults. Int J Dent Oral Health, 8, 2021.
3. 高橋 睦, 坂東陽月, 北岡克彦, 木村慎之介. 咬合状態がエリートアスリートの姿勢制御と身体能力に与える影響—女子ハンドボール選手を対象とした検討—. スポーツ歯学, 24, 2020.
4. 坂東陽月, 高橋 睦, 杉田正明. スポーツ学科専攻の大学生アスリートに対する口腔管理とスポーツ歯科学に関するアンケート調査. スポーツ歯学, 23, 2020.
5. 坂東陽月, 高橋 睦, 小口貴久, 福井卓也, 丸山章子, 松井陽子, 杉田正明. スケルトン競技のオリンピック強化指定選手に対する歯科学的サポート. スポーツ歯学, 22, 2019.
6. 坂東陽月, 高橋 睦, 福井卓也, 丸山章子, 杉田正明. トランポリン選手における咬合接触状態と姿勢制御機能の関連. スポーツ歯学, 23, 2019.
7. 坂東陽月, 高橋 睦, 北山吉明. バドミントン競技におけるジュニア日本代表候補選手の口腔機能と運動機能との関連:第1報 デンタルプレスケールを用いた咬合力による検討. スポーツ歯学, 21, 2018.